

円覚公御画像（118.1×50.2 cm） 絹本着色 江戸時代

出石藩主仙石家の藩祖である仙石秀久（天文 20（1551）年*～慶長 19（1614）年）の肖像画です。

円覚公とは秀久の諡号（生前の功績によってつけられた名）です。

秀久は通称を権兵衛といい、13 歳で織田信長の家臣となってから、豊臣秀吉の配下として各地を転戦し、讃岐国高松城主として 10 万石を領する大名に出世します。しかし、天正 14（1586）年、九州島津攻めでの大敗により改易され、浪人となりました。

天正 18（1590）年、秀吉の小田原攻めに参陣し、その時の活躍により信州小諸 5 万石の大名として返り咲きました。

この肖像画は、小田原攻めの時のいで立ちであると思われます。熊毛の陣羽織に鈴を縫い付けた奇抜な衣装で、鈴鳴り武者と呼ばれた彼の独特のスタイルを描いています。

*) 『改撰 仙石家譜』に記載された生誕年。天文 18（1549）年とする異説もある。

作成：豊岡市地域コミュニティ振興部文化振興課文化財室